

9-C コナラ(小楯)の巨木

ブナ科コナラ属
Quercus serrata

■コナラの巨木評価基準

- A 幹周おおむね7m以上の単幹樹、同等評価のコナラの巨木。
- B 幹周おおむね5~7mの単幹樹、同等評価のコナラの巨木。
- C B評価以下のコナラの巨木。

コナラ・カシワの巨木分布図



■主なコナラの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	帝釈始終のコナラ 写真 K-001	M7.45m(1.3m 2008)	20m	広島県庄原市東城町帝釈始終字岩屋ヶ谷山	県
A	津島神社のコナラ(御神木大楯) 写真 K-002	M7.4m(上部 0.5m 2008)	20m	岐阜県飛騨市神岡町山田	県
B	平根のコナラ	6.05m	25m	山形県最上郡戸沢村角川字平根	なし
B	木ノ下のコナラ 写真 K-003	5.6m	15m	山形県最上郡真室川町木ノ下	なし
B	達沢原生林のコナラ 写真 K-004	5.1m	28m	福島県耶麻郡猪苗代町蚕養字大達沢	県

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	長倉のコナラ 写真 K-005	5.35m	14m	岩手県一関市萩荘字長倉	市
B	広瀬の大ナラ 写真 K-006	M6.2m(上部 0.2m 2008)	28m	山梨県山梨市三富川浦字広瀬	市
B	上の森のコナラ 写真 K-007	5.75m	16m	長野県駒ヶ根市中沢中山	市
B	波多神社の小櫓 写真 K-008	M5.35m(1.3m 2015)	15m	長野県松本市波田上波田	町
B	下田のコナラ 写真 K-009	5.7m	20m	奈良県宇田市室生区室生	なし
B	洞草薬師堂のコナラ 写真 K-010	6.05m	19m	徳島県三好市池田町西山字洞草	県
C	日限のコナラ 写真 K-011	5.65m	21.5m	静岡県島田市川根町笹間上日掛	なし
C	田代の七色の木 写真 K-012	5.4m	21.5m	愛知県豊田市小原田代町	市
C	板井谷のコナラ 写真 K-013	4.7m	18m	広島県庄原市東城町小奴可字板井谷	県
C	白須賀のミズコナラ 写真 K-014	M	10m	山形県最上郡大蔵村清水白須賀	村
C	菖蒲ヶ浜駐車場のコナラ 写真 K-015	4.5m	25m	栃木県日光市中宮祠	なし
枯死	ワラロのコナラ 写真 K-016	M5.9m(1.3m 2014)	22m	山形県北村山郡大石町大字大浦字ワラロ	
枯死	大櫓峠のコナラ 写真 K-017	4.5m	27m	東京都西多摩郡奥多摩町海沢	



写真 K-001
日本一のコナラ
たいしやくししゅう
帝釈始終のコナラ

全国のコナラの巨木で7mを越えるものは二本しかなく、貴重な一本だ。しかし、背後から観察すると(下写真)、主幹中心部に融合の痕跡が明瞭に見られ、二本の融合木である。廃村になった集落の奥まった場所に、山の神として祀られている事から、これは仕立て樹形で、融合させる事により、生命の繁栄を願った土俗信仰と考えられる。しかも、スギでは多く見られるが、コナラとしては大変珍しく、民族遺産としても重要なコナラである事からA評価とした。





写真 K-002

つしま
津島神社のコナ(御神木大榎)

ミズナラとの記載もあるが、葉を見るとコナラである。見事な単幹樹で、全国で7mを越える二本のうち的一本だが、帝釈始終のコナラは合体木なので、単幹樹のコナラでは日本一である。神社背後の山際に立ち、大きく枝葉を広げている。



▲写真 K-003

木の下のコナラ

(写真・Web 画像)



▲写真 K-004

達沢原生林のコナラ

(写真・石田徹)



▲写真 K-005

ながくら
長倉のコナラ

石川家の敷地内に立つ当家の守護神。

(写真・Web 画像)



写真 K-006▶

ひろせ
広瀬の大ナラ



▲写真 K-007
上の森のコナラ
(写真・石田徹)



▲写真 K-008
波多神社のコナラ



▲写真 K-009
日限のコナラ
(写真・Web 画像)



▲写真 K-010
田代の七色の木
(写真・Web 画像)



▲写真 K-011
下田のコナラ
(写真・谷田元彦)

▲写真 K-015
菖蒲ヶ浜駐車場のコナラ
(写真・石田徹)



▲写真 K-012
板井谷のコナラ
(写真・Web 画像)

▼写真 K-016
枯死・ワラロのコナラ



▲写真 K-013
洞草薬師堂のコナラ
(写真・Web 画像)

▼写真 K-014
白須賀のミズコナラ
ミズナラとコナラの雑種。主幹半壊している。



▼写真 K-017
枯死・大柗峠のコナラ
(写真・Web 画像)



9-D カシワ(櫨)の巨木

ブナ科コナラ属
Quercus dentata

■カシワの巨木評価基準

- A 幹周おおむね6m以上の単幹樹、同等評価のカシワの巨木。
- B 幹周おおむね4~6mの単幹樹、同等評価のカシワの巨木。
- C B評価以下のカシワの巨木。

■カシワの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	勝源院の逆カシワ 写真 KW-001	6.86m(実際は測定不能)	15m	岩手県紫波郡紫波町日詰字朝日田 273	国
B	緋牛内の大カシワ 写真 KW-002	5.0m	17m	北海道北見市端野町緋牛内 780	なし
B	上村のカシワ 写真 KW-003	M5.62m(1.3m 2012)	22m	青森県三戸郡五戸町倉石中市字中市 62	県
B	清見ヶ丘公園のカシワ 写真 KW-004	4.7m	25m	北海道中川郡池田町清見ヶ丘	なし
B	ペップトのカシワ 写真 KW-005	4.6m	20m	北海道勇払郡むかわ町穂別 119	道



評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	観音山の御神木 写真 KW-006	4.49m	12m	北海道様似郡様似町観音山	なし
B	芽室公園のカシワ 写真 KW-007	4.34m	25m	北海道川西郡芽室町本通 8 丁目	町
B	地藏カシワ 写真 KW-008	M4.55m(1.3m 2015)	15m	新潟県妙高市杉野沢 地藏山国有林	なし
B	白山社の大柏樹 写真 KW-009	M4.2m(1.3m 2015)	17m	長野県茅野市湖東須栗平	市
B	柏王の大カシワ 写真 KW-010	M4.79m(0.6m 2015)	12m	長野県千曲市戸倉字宮坂 878	市
B	象山のカシワ 写真 KW-011	M3.4m(1.3m 2015)	15m	長野県長野市松代町西条 象山	県
C	一本木神社のカシワ 写真 KW-012	M3.58m(1.3m 2015)	25m	長野県大町市常磐上一	町
C	甲西町の大カシワ 写真 KW-013	4.0m	15m	山梨県南アルプス市和泉 282	国
C	新田牧場のカシワ 写真 KW-014	4.92m(1m で 2 分岐)	22m	北海道中川郡幕別町新和 162	なし



写真 KW-001

日本一のカシワ

しょうげんいん さかさ
勝源院の逆カシワ

勝源院は美しい寺である。車の多い国道沿いから入って、杉並木の続く参道の先に古い山門があり、歴史を感じさせてくれる古寺である。逆カシワという珍しい名前の巨樹は、本堂裏の広い庭園の中心にあり、庭全体を覆うように、南北 25m、東西 30m という実に壮大な樹冠を広げる珍しい仕立てカシワである。根元から 4 分岐、分岐幹は水平に広がり、根元は美しい緑の苔とシダに覆われ、野趣にあふれている。柏餅で見慣れたカシワの枯れた葉がその上に落ちて、色彩にも落ち着いた雰囲気がある。背景は大きな杉の茂る山並が続き、実に絵のような光景がある。本堂の黒色の瓦屋根も美しく、建築と雄大な庭園を設計した先人の才能にただ脱帽する。

主幹の幹周は根元が分岐幹で覆われ、測定不能。ただ、このカシワに関しては、幹周の数字は無意味としか思えず、珍しい仕立てカシワである事、そして、巨大さ、立地、歴史等を鑑みて、A 評価には異論がないカシワであり、AA 評価も視野に入る珍樹でもある。



▲写真 KW-002
ひうしな
緋牛内の大カシワ
(写真・Web 画像)



▲写真 KW-004
清見ヶ丘公園のカシワ
(写真・Web 画像)

▼写真 KW-007
めむろ
芽室公園のカシワ
(写真・Web 画像)



▲写真 KW-005
ペップトのカシワ
(写真・Web 画像)

▼写真 KW-008
じぞう
地藏カシワ

夢見平遊歩道を2時間程入った製材所跡に立つ。一帯には単幹カツラの「地藏カツラ」もある。



※上村のカシワは、数字の上では単幹日本一のカシワという事になるが、幹周は6m未満で、ブナ科の樹木としては巨大感に欠けるので、単幹日本一のカシワの選定は見送った。



▲写真 KW-003
わむら
上村のカシワ

圓子住宅の横に立つ。根元に祠がある。1.5m付近から巨大なコブが幾つもできて、荒々しい。



◀写真 KW-006
かんのんやま
観音山の御神木
(写真・Web 画像)

▼写真 KW-009
だいはいくじゅ
白山社の大柏樹

白山社の御神木だが、道路際に立つ。近くに「白山社のキタコブシ」がある。





▲写真 KW-010
かしお
柏王の大カシワ

住宅地から山道を登った山中に立つ天然カシワ。1.2mで2本の側幹が斜上、主幹は7mで分岐し、大きく枝葉を広げ、枝張りは最長18mにも及ぶ樹勢がある。



▲写真 KW-011
ぞうざん
象山のカシワ

象山神社の山側に登山口があり、20分程登ると山道の谷側にやや斜上して立つ見事な天然カシワ。主幹の谷側が損傷していて、幹周の数字が小さくなるが、損傷前の幹周は4m以上あり、現在も大きく枝葉を広げる樹形は見事である。



▲写真 KW-012
一本木神社のカシワ
神社境内に立つ単幹カシワ。



▲写真 KW-013
甲西町の大カシワ
2009年9月の台風で倒木し、その後クレーンで起され、樹勢回復を待っている。
(写真・Web画像)



▲写真 KW-014
新田牧場のカシワ
(写真・Web画像)